

# COIL 型授業実践紹介

## Vol. 1

南山大学

授業名：日本文化学演習 IA

担当教員：岩崎典子

所属：日本文化学科

**実施年度・時期** 2020 年度・第 1 クォーター

**連携先大学** Queens College, The City University of New York

**連携先授業名** Advanced Japanese II (JPNS 306)

**連携先担当教員** 藤本まり

**COIL カテゴリ** アカデミック COIL

**参加学生数** 南山大学 5 名 連携先大学 5 名

**使用言語** 日本語と英語

**コミュニケーションツール** それぞれの学生の選択によるが、主に LINE

### 交流内容

日本語を第二言語とする、多様な文化背景の米国学生と、人びとの多様性をめぐる固定観念や偏見に関わる意見交換をしつつ、第二言語でコミュニケーションをすることについても考察した。日米の学生が自分のパートナーと時間やコミュニケーションツールを決めて以下の活動を行った。

- 1) 自己紹介のビデオを作成して交換
- 2) クイーンズ・カレッジのウェブサイトで公開されていた新学長 Frank Wu 教授（人種差別の専門家）の COVID19 感染に伴うアジア人への偏見問題に関するニュース番組のインタビュービデオを視聴し、また、朝日新聞（デジタル）に掲載された韓国料理店への差別的落書きについての記事「『犬食うのやめろ』NY のアジア系差別、コロナで急増」を読んで、パートナーと内容を確認し、意見交換をした。
- 3) 以下に関して意見交換を行った。
  - A.（米国学生への質問）新型コロナウイルスの為に自分が経験・目撃したヘイトクライムなどがあるか。
  - B.（本学の学生への質問）新聞記事やマスメディアなどで海外にいる日本人がヘイトクライムの標的となったような事件や報道を見たり聞いたりした経験があるか。
  - C. どうすればこのような差別問題を乗り越えられるのか。
  - D. ポストコロナの異文化との接触はどのように変わっていくか。
  - E. 新型コロナウイルス・パンデミックより学んだことは何か。

この活動に続き、時間があれば、国文学研究資料館の館長ロバート・キャンベル氏による「日本古典と感染症」の英語ビデオと日本語ビデオも視聴して、意見交換することを促した。

4) 最後に各ペアで「差別」の問題と解決策についてのビデオを作成した。

**評価方法** 毎回の授業で COIL 活動の報告を聞き、各自が毎回記録して提出した活動記録に基づき、授業参加の一環として評価した。

### **担当教員からのコメント**

COVID19 の感染状況が深刻なクーンズ地区の大学に在学する学生とオンラインで繋がることにより、ニューヨークに住まう学生の多様性の認識、コロナ感染で顕著となった偏見・差別の問題などを実感できたようで、多くの学びがあったようだ。また、日本語教育に関心のある学生が、第二言語によるコミュニケーション（意見表明、ビデオプロジェクト遂行のための提案・交渉）や言語調整能力について実体験を通して考えることができたことは有意義だった。

### **連携先大学担当教員からのコメント**

第二言語の日本語を使つてのコミュニケーションに初めは躊躇したもの、そこから国際交流と文化の違いについてのクラスのディスカッションを経て学ぶものが多くあった。また、南山大学の学生とともに偏見、差別などの実際ニューヨーク、クイーンズを取り巻いている社会問題を話し合えた事は大変有意義であった。また、同世代の学生と今まで習ってきた日本語で会話を行えた事で、今一度、自らの語学学習の目的と語学の向上への意欲を再確認したようであった。さらに、オンラインの国際交流を行うことが出来たことが、長期化する COVID19 の自粛生活の中で精神的に励みになったと報告を得ている。

### **学生の成果物**

1. <https://youtu.be/PFCFuCuCtO0>
2. <https://youtu.be/2OqU4H7kddk>